東京の会通信

No.295

2021年3月1日号
（隔月1日発行）

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031　東京都千代田区
東神田1-3-4　KTビル3階
TEL：03-3866-8171
（FAX兼用）

http://www.marrow.or.jp/tokyo/
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円

コロナに負けず頑張っています

日本で新型コロナウィルスの感染が始まって１年以上が経過しましたが、2021年の年明けから２回目の緊急事態宣言が出され、献血ルーム活動をはじめ東京の会の活動はほぼ停止状態となっています。そんな中でも会員の皆さんは、それぞれの生活や仕事を続けながらボランティア活動の再開を待っています。

今回は「コロナに負けず頑張っています。～コロナ禍で新しく始めたことや習慣、おうち時間の使い方を教えてください～」をテーマに会員の皆さんから投稿を集めました。これからもお互いにエールを送りあって、コロナ禍を乗り切りましょう。

個人的にですが、「台東区100人カイギ」というのにZoomで登壇して骨髄バンク運動と動物愛護について話す機会を得ました。５人の方がそれぞれの分野での話をして繋がっていくというもので、20回したら終わるというもの。20時から始まって21時くらいに話すのは大変でしたが、いろいろな方が見てくださっているので、東京の会の歴史と活動について写真を出して話しました。

11月のチャリティコンサートのこと、代々木公園でのスノーバンクの説明員活動のこと、骨髄を提供したドナーさんに対しての補助金について５年ほど前から都庁に陳情・請願に動いたことなども話しました。今後５人の方たちと繋がって行くのでいろいろな場で機会があれば啓発活動として、話し続けていきます。

（竹崎恵子）

20歳で白血病を発症し、牧師になれなかった長男は、闘病中私にいつも言っていました。「明日のことをくよくよ悩まない。明日のことは明日が考える。今日は今日の苦労で十分だよ。」これは新約聖書のマタイ福音書６章の『明日（あす）のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労はその日だけで十分である。』というイエスの言葉のひとつです。

発病以来そばにいた私は、努めて明るく振る舞っていましたが、母親の嘆きをすべて分かっていたのです。病いを受け入れ、辛い治療と向かい合い、誰よりも苦しかったのは本人でした。そんな様子は全く見せず、私は病人にいたわられていたことも気付かず日々余裕もなく過ごしていました。人はどんな病気にかかっても諦めないで耐えているのだと、自分が去年腎臓がんになって実感しました。

このコロナ禍の状況でもし彼がいたら、何と言ったでしょうか？「明日何が起こるか誰にもわからない。だから今日を大切に生きたい」そんな声が聞こえる気がします。医療従事者の皆さまに心から感謝をして、新型コロナ感染症のワクチン接種が出来たら……。
会いたい人がいます。抱きしめたい人がいます。その日を信じて待っているのです。　（大塚礼子）

ボランティア活動をお休みして１年が過ぎようとしています。東京の会では歴代より常に「会食」を大切にされていましたので、時々写真を見ると涙腺がゆるみます。本人の基礎疾患と家庭内の諸事情もあり、家を空けられない毎日です。その中でも大勢の皆さんが事務所の転居、ドナー登録会、各イベントの中止のお知らせに働いていることをZoom定例会で伺っています。今は何も出来ないので誠に申し訳ございません。

報道では「コロナ渦・巣ごもり」と言う言葉が四六時中使われています、テレビ・新聞から逃げても、ラジオ・インターネットの情報が、日々の生活に入り鬱々

としています。外に出る機会がめっきり減り掃除や雑用が増えると、それが徐々に上手くなりYouTubeで研究して楽しめる迄になりました。作業効率も上がり綺麗に磨いた廊下で何をするのかと申しますと、使わなくなった照明機材を倉庫から復活させ、ミニカーの撮影を楽しみ「頃中マイカー凄盛りSeries」としてSNS等に紹介させて頂いています。

東京の会メンバーとして沢山の事を経験させて頂きました、448日間の入院生活も、以前の職で得た経験も、何ひとつ無駄なことはありませんでした。

持論になりますが、入院時に74人の方から輸血をいただき、ひとりの方から骨髄移植を与えられたのだから、75人分の暖かさを繋いで行こうと今も考えています。ボランティア復帰はしばらく先となりますが、どうぞ引き続きよろしくお願い致します。　（鳥羽雅行）

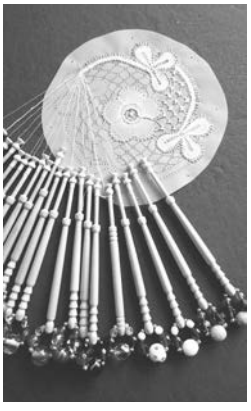
血液難病で闘病中の皆様、コロナ禍の今どれほど不安な毎日を過ごされておられる事でしょうか。誰かが何処かで『パンドラの箱』を開けてしまい、中からコロナという悪疫が飛びだして世界中に広まってしまいました。私自身も高齢者、夫も基礎疾患持ちの高齢者で、毎日不安に過ごしています。

でももうすぐワクチンが日本でも接種されるという事ですし、しっかりした治療法が確立されるかもしれません。『パンドラの箱』から最後に出て来たのは、『希望』でした。その『希望』は明日への明かりであり、患者様にも私達にも、明日への喜びです。コロナが始まった頃に書きましたが、私達の出来ることは、ただただ健康管理に気をつけて、医療関係者のお手を煩わせないことだと思っています。そんな事しかできませんが、心の中では、いつも患者様のことに思いを馳せています。どうぞ風邪など召しませぬようにお大事になさって下さい。　（中谷光子）

緊急事態宣言が再発令されて、1月2月は献血ルームの活動が休止になりました。今は感染しないように外出自粛を守って生活しています。

私はボビンレースというとても細かな手仕事を趣味としており、糸を巻いたボビンを操りながらレースを織っていると2～3時間はあっという間に過ぎてしまい、外出自粛は全然苦になりません。

このところ"Duchesse"という技法のレースに初挑戦中です。オランダで出版された本を見ながら（文字は当然読めないので図と写真を参考に）試行錯誤し、少しずつレースの形が見えてきたところです。



お家時間を楽しみながら、また説明員として登録会に参加出来る日を心待ちにしています。　（松下倫子）

新型コロナウィルス感染症が国内で発生して1年、すべての人がマスクを着用する「ユニバーサルマスク」という概念が急速に普及してきました。私自身、コロナ禍前は寒さ対策や花粉症対策として毎年12月から5月の間はマスクを着け通勤し会社の中ではマスクを外して仕事をする生活を続けてきました。この生活が新型コロナウィルス感染症発生に伴い、すべての人が毎日朝の通勤・通学から夜帰宅するまでマスクを着ける生活へと大きく変わることになりました。

私は白血病と移植を経験して、移植後ほぼ毎年肺炎になり入院を繰り返してきました。感染したら「どうなるのだろう？」「重症化するのかなあ」といった不安が募りました。不安の中、マスクをすること、手指消毒など基本的な感染予防をこの1年行ってきました。

このような生活を1年間続けてきた結果、1度も風邪を引くことなく過ごすことができました。すべての人がマスクを着用し予防している効果も重なっていると思いますが、感染予防を心掛けること（意識すること）で新型コロナウィルス以外の感染症も予防できることを実感しました。先日、定期的な通院があり担当医に、昨年1度も風邪を引いていないことを伝えると「マスクの効果かなあ」と言われていました。そして、これからも続けるように言われました。

テレビやSNSの情報でもマスクを着用することによる予防効果が実験で実証されつつあります。まだまだ、感染が収束する見通しがない中ですが、国民一人一人がマスクを着用する「ユニバーサルマスク」を継続し「感染しない」「感染させない」を心掛けコロナ禍を乗り越えて行けたら良いなあと考えています。

（光江健太郎）

新聞に載っていたサラリーマン川柳、「会社には来るなと上司 行けと妻」に大笑い。緊急事態宣言発出中は我が社も70%テレワーク指令が出ていますが、自分は医療部門の所属なのでそうも言っていられず、マスク着用・アルコール持参・三密回避（当たり前ですが）を徹底しながら已むなく週4日ペースで神奈川から東京へ都県跨ぎ通勤をしています。

ZoomをはじめWebツールも使い慣れ、オンライン飲み会も楽しみながら様々な行動変容が定着してきましたが、どうしても対面でないと伝わらない意思や感情、得られない情報、取れないコミュニケーションがあります。我が国独特の文化・風習なのかも知れませんが、もう変わることはないであろう生活様式の変貌に、本来その中から生まれて来た情熱・信頼・博愛・利益が取り返せなくなることを深く憂慮します。

骨髄バンクのドナー登録も色々な手法が取り入れられつつあり、これも時代の趨勢なのかも知れませんが、我々ボランティアとしては機械的にではなく、患者さんや家族の思いや窮状、ドナーの必要性、骨髄採取のリスク等々を直接自分の言葉で伝えたい、訴えたいという強い思いがあります。今は活動が制限されていま

すが、正常な状態に戻ったらまた広報活動に精を出したいと思う次第です。

ある日のこと、漬物の匂いを嗅いでいたら、傷んでいないか確かめていると思い込んだ家内が、「それたった今封を開けたばっかり！」と怒り、自分も「嗅覚が鈍ってないか確かめてんの！」と反駁。コロナ禍で家庭内暴力が増えているそうですが、みなさん落ち着いて収束を待ちましょう。（松阪一紀）

日本で新型コロナウィルスの感染が確認されてから１年ちょっと。「東京は今日は○人だってね」と確認し合うのが日課になってしまいました。そして、経済との両立とか疫学的な観点など関係なく「GoToはやめた方がいいよ」「緊急事態宣言出さなきゃダメでしょ」「専門家の意見なんか聞かなくてもみんな知ってるのに」などと、テレビのニュースを見ながら毎日悪態をついたり勝手なことを言ってストレス発散しています。

今は幸い、まわりにコロナに感染したという人もなく、テレワークも取り入れながら週２～３日は出社していますので、生活が激変したという感覚はあまりありません。ただ、もともと人の顔を覚えるのが信じられないくらい苦手なのに、マスクから出ている部分だけで判断しなければならず自信がなくて、それだけが不自由です。久しぶりに会った人でもみんなよく分かるなぁと感心します。

でもこんな呑気なことを言っていられるのも、医療をはじめとするエッセンシャルワーカーの皆様のおかげと本当に感謝しかありません。心無い言葉を浴びせたり差別などあってはならないと思います。コロナに罹ってしまった人に対しても然りです。

ワクチンの接種も始まりましたが、もうしばらくは、とにかく一人一人が感染対策をして気を付けるしかないと思うので、引き続きそれぞれ心掛けて乗り切りましょう。トンネルの出口はきっともうすぐです！

（福永達子）

コロナ禍で昨年の４月から在宅勤務がメインとなり、生活が大きく変わりました。友人たちとの付き合いや習い事、通勤などの時間がなくなり、家でこれまで出来なかった事をしようと思っていましたが、時間外の仕事を続けてしまったり意外に余裕のない生活をしており、何か始めたいと感じていました。

NHK-BSで通りがかりの人がピアノを演奏する『駅ピアノ・空港ピアノ・街角ピアノ』と言う番組で、皆とても気持ちよさそうにピアノを弾いている姿がとても印象的だったため、自分もピアノを練習したいと思っていましたが、これまでの忙しい毎日ではなかなか踏み切れず。そこで今がチャンスと電子ピアノを買いました。

実家を離れて以降はほとんど鍵盤に触れる機会がなく、若い頃とは違い思うように動かない自分の指に驚きながらも、練習しているとあっという間に時間が経ち、何かとストレスを感じるコロナとの生活の中でリフレッシュできる楽しい時間となっています。

（大熊友子）

新型コロナウィルス感染拡大による２回目の緊急事態宣言が出されましたが、私の職場はテレワークができない業務のため、週に１回程度交代で自宅待機があるほかは通常通り通勤しています。母親の介護があるので９月から残業の少ない部署に異動させてもらいましたが、自宅待機者がいる中で最近仕事が急に増えたので、残業になる日も出てきています。

秋に休暇を取って母親を連れて旅行に行く予定がありましたが、直前に母親が通うデイサービスで陽性者が出てしまいました。母親は陰性でほっとしたものの旅行は中止となり、GOTOトラベルも利用できませんでした。その後デイサービスも再開し、私も母親も無事に過ごしています。

コロナ前から仕事の後はまっすぐ帰宅して夕食を作っているので、生活はあまり変わりません。最近変わったことと言えば、スマホを変えたこととインターネットを光回線にしたことでしょうか。今後Zoom会議も快適に参加できると思います。ついでにパソコンの買い替えも検討中です。

昼食も自作弁当にしたので、外で食べることはほとんどなくなりました。でも少し寂しい気持ちもあります。コロナが収まって会食ができるようになったら、また皆さんと楽しく飲みたいです。会員の皆さんの健康と、一日も早くボランティア活動が再開できることを祈るとともに、闘病中の皆さんや、医療関係者の皆さんに心からのエールを送ります。（二見茂男）

去る１月12日の東京新聞朝刊５面「発言」欄に、以下の投書を採用していただけました。

骨髄バンクで知るべき３点　三土明笑（みつちあけみ）

定年退職者である立場を生かし、約１年半前から、骨髄バンクから献血ルームに派遣される臨時のドナーリクルート係をさせていただいている。ドナー登録を呼びかける役目だ。その活動を通じ、以下の事柄が広まっていれば、ドナー登録者はもっと増えるのにと、歯がゆく思っている。それは、第一に、ドナーからの造血幹細胞の採取は、静脈から成分献血の機械を使って採取する、全身麻酔の要らない方法（末梢血幹細胞採取）も導入されている点。第二に、東京23区など多くの自治体で、ドナーとなるために取った休暇一日につき２万円、勤務先の事業所へも１万円の助成制度がある点。第三に、献血の申し込みの際にドナー登録も申し出れば、献血の事前の検査用採血と同時にドナー登録用のHLA検査のための２ミリリットル採血もしてもらえ、一石二鳥で登録できる点。これらの普及啓発が、登録者の増加に繋がるのではないかと感じている。（三土明笑）

１年前、2020年３月１日に開催された「東京マラソン2020」では、全国骨髄バンク推進連絡協議

会が寄付先団体に選定されたため、骨髄バンクを支援するために寄付をしてくださったランナーを応援するために、マラソンコース沿道数カ所での応援イベントを企画していました。それが新型コロナウィルス感染拡大のために、一般ランナーが参加できなくなり、応援イベントも中止となりました。

思えばそれ以来、新型コロナが日本だけでなく全世界で感染拡大の猛威を振るい、日常生活が一変しました。東京の会定例会も集合での開催を見送り、Zoomを使い自宅からパソコンやスマホの画面を通して参加するWEB方式を取り入れ、多くの人が集合する感染リスクを避ける形式を取り、現在に至っています。

ボランティア活動は、同じ目的を持った人々が一同に会して語り合い行動を共にすることで連帯感とやりがいが生まれます。そんな基本的な活動が、新型コロナウィルスのために自粛を余儀なくされています。早く1年前に戻りたいと思っているのは、皆さん同じでしょう。

しかしコロナウィルスが今後撲滅されることは考えにくく、生活において継続して感染予防を取り続けることが必須となります。新しい生活様式を取り入れて、なおかつ今まで通りに骨髄バンクへの理解とドナー登録拡大を目指すための新しいボランティア活動を、今後模索する必要があるでしょう。みんなで考えてまいりましょう。（若木換）

厳しい状況が続いていますが、それをポジティブに捉えて、こんな時だからできること、状況が改善されたらやりたいことを考えるようにしています。

・走る、自転車に乗る、本を読む

一人でできること、家でできることに楽しみを見つけます。ジョギング、自転車で体力アップ。買ったけど読んでいない本をたくさん読む。また、しっかりと感染対策をした上で定期的な献血を継続しています。

・コロナ禍が沈静化すれば、取得したての「骨髄ドナー登録説明員」資格をもっと活かしたい。

皆で協力し合い、助け合って、この困難を乗り越えましょう！（石崎保夫）

コロナ禍の2020年6月に第一子を出産しました。両親学級、里帰り出産、立会分娩、見舞いなど、叶わなかったことはありましたが、妊娠中にテレワークをさせてもらったり、オンライン相談会で助産師さんとお話ししたり、オンラインイベントで育児中の方々と繋がったり、オンラインセミナーで新しいことを学んでみたり…妊娠中・育児中には難しかったであろう様々なことができるようになり、良いことも沢山ありました。京都に移り住んでから直接関わる機会が少なくなっていた東京の会の活動にも関わることができるようになり、嬉しく思っています。

妊娠中や産後間もない頃は、得体の知れないウィルスから我が子を守れるのか不安で神経質になっていましたが、お陰様でここまで元気に育ってくれました。これからも「正しく恐れ」、沢山笑って免疫力を高めて、この難局を明るく乗り切っていきたいと思います。東京の会に関わる皆様からも、いつも元気と勇気を頂いています。直接顔を合わせることはまだ先になるかもしれませんが、これからも心で、オンラインで、繋がっていくことができれば幸いです。（甲斐彩子）

新型コロナウィルス感染者数の増大により再度の緊急事態宣言、私の関係する各種団体も様々な影響を受け、ほぼ活動休止の状況が続いております。しかしウェブ会議では事足りず、出向かなければならないこともあります。その時は十分な感染対策をしたうえでの活動となります。

現代だからこそいろいろな対応ができますが、一時代前ならば、大変な状況であっただろうと容易に想像できます。そんな中で最前線の医療現場で戦っている皆さまには深く敬意を表し、心より感謝申し上げます。

様々な病気と闘っている方々、またコロナに感染してしまった方々が健康を取り戻していただくために私たちは何ができるでしょうか？心よりエールを送ることはもちろんです。そして状況次第で、誰もが感染者になりえる中、また医療現場が崩壊しないためにも我々が健康管理に徹しコロナに感染しないことです。そして不確かな情報に惑わされることなく、偏見や差別などで人を傷つけないよう冷静に行動し、家族・地域を守り協力してこの難局を乗り切ることだと思います。

ワクチン接種もすすみ、治療薬も開発され、感染拡大が収束し、病室での面会もできるようになって安心して病気と闘える環境を取り戻すこと、そしてみんなが元気になっていつもの生活を送れることを心より願っています。（名川一史）

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー
（令和3年1月末日現在）

	ドナー（全国）	ドナー（東京）	患者（全国）
登録者累計	529,708	66,759	61,007
12-1月登録分	5,446	689	405
12-1月抹消数	6,749	813	－
実質登録増	▲1,303	▲124	－

患者とドナー登録・適合状況（1月末日現在）

ドナー登録受付者数（累計）	850,085人
ドナー登録抹消者数（累計）	320,377人
HLA適合報告ドナー数（累計）	336,523人
実質登録患者実数（現在）	1,862人（国内1,342人）
HLA適合患者数（累計）	48,533人（患者累計数の79.5%）
非血縁移植実施数	25,120例（12-1月実施174例）

『＃病室WiFi協議会』…を広めています！！！

コロナ禍のなか、全国骨髄バンク推進連絡協議会顧問の大谷貴子さんが、悪性リンパ腫に罹患したフリーアナウンサーの笠井信輔さんたちと、「病室にWi-Fiを」という新たな運動をはじめました。大谷さんからのメッセージを掲載します。皆さんも応援よろしくお願いします。

SNSで拡散するには、＃（ハッシュタグ）の必要性、平仮名は表記しない、ラップ調が良い、などのご意見を取り入れ、『＃病室WiFi協議会』が立ち上がりました。まず、『＃病室WiFi協議会』を検索してみてください。

～♪ハッシュタグ　ビョーシツ　ワイファイ　キョーギカイ　イエイ♪～

さて、皆様は、病室にWi-Fiが完備されている病院とそうでない病院があるのをご存知ですか？

がん研有明病院や国立がん研究センター東病院は私が調べ始めたときにはすでに全室フリー Wi-Fi完備。広尾の日本赤十字社医療センターは、つい最近、全室完備されたそうです。が、一方、都内の病院でも、外来棟には完備されているが、病室はすべて完備されていないというところもありましたし、有料個室には完備、無料の大部屋には完備無し、というところまであります。正面玄関でスマホの電源を切らされるというところがあったり、医局にもWi-Fiが完備されていないので医師からも「困っています」と言われたり、各医療機関でこれだけの差があることに愕然としました。

コロナ感染の収束が見えない今、小児科では、親の面会、付き添いが制限されています。白血病などは、診断されれば即、入院です。いきなり親子が離されるのです。親も子もどれほどの衝撃か。成人の白血病も長期入院を余儀なくされます。固形がんとは、そもそも入院期間が違うのです。入院生活が「生活」になるのに、通信手段が断たれることはライフラインを断たれることに等しいと思います。

また、聴覚障害をお持ちの方は、手話通訳の方と一緒に通院されることが多いそうです。しかし、コロナ禍では、病院に「患者以外」は入れないことが多々あります。入院してしまえばなおさらのこと。そこで、外から手話通訳をお願いするタブレットを用いた「遠隔手話通訳」という手法があります。病室側にいる患者さんの通信手段が断たれてしまったら、当然、遠隔手話通訳は成り立ちません。たちまち「自分はどんな病気なのか」「これからどのような治療をしていくのか」さえわからなくなります。そのために、データ通信容量アップなどの費用を自己負担して医師と意思疎通をしなければなりません。それは、『等しく医療を受ける権利を奪われる』ということになるのです。私たちが医療者と話すとき、特別に費用が発生するわけではありませんが、病室内にフリー Wi-Fiが完備されていないということだけで、聴覚障害をお持ちの方は、わざわざ費用負担をしなければならないのです。

（これらのことは、『＃病室WiFi協議会』のホームページに詳しく掲載していますので、ご一読いただければ幸いです。）

まだまだ始まったばかりの運動体ですが、コロナ禍では急務ですし、賛否両論を伺いながら、短期決戦で議論をしていこうと思っています。賛同者の皆さま、どうぞ、よろしくお願いいたします。　（大谷貴子）

5月会報発送
「おりおり」のお知らせ

【注意！】今年から会場と曜日が変更となりました！

東京の会事務所移転に伴い、おりおりは
全国協議会事務所での開催となります。
また、曜日も日曜日に変更となりますのでご注意下さい。。

日時：5月9日（日）14時00分より
※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4　KTビル3階）
交通：都営新宿線「馬喰横山」駅　徒歩５分
都営浅草線「東日本橋」駅　徒歩７分
東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅　徒歩７分
JR総武快速線「馬喰町」駅　徒歩５分

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようにお願い致します。
なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

※7月「おりおり」予定・7月4日（日）14時00分より

東京ドナー登録会予定（3月・4月）

新型コロナウィルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、現在ドナー登録会が中止となっているため、公表できる開催予定はありません。

▼日本骨髄バンクの発表によると、2020年１月～12月の新規ドナー登録者数は28,903人でした。2019年は競泳の池江璃花子さんの白血病公表により59,994人と2018年対比で171％の大幅増となりましたが、2020年は新型コロナウィルスの感染拡大による緊急事態宣言の影響で４月から５月が例年の３割となるなど、一転して半数以下（48％）の大幅減となりました。2018年対比でも6,182人減（82％）です。

▼６月以降はドナー登録が堅調に推移したとのことですが、今年１月から２回目の緊急事態宣言が発出されており、登録会が開催されなくなるなどドナー登録数への影響が懸念されます。東京の会が行っている都内献血ルームでの献血・ドナー登録推進活動も、再び休止を余儀なくされています。

▼新型コロナウィルスの感染拡大により新規登録者が減少する一方で、登録年齢超過などによりドナー登録が抹消される人数が増えており、2020年12月末時点のドナー登録者数は529,140人と、2019年12月末から1,919人の増加にとどまっています。このままではドナー登録者数が減少に転じる懸念も出てきています。

▼原稿執筆時点で、東京都内の新規感染者数は500人を下回る日が続いており、延長期限の３月７日には緊急事態宣言が解除される可能性が高まっているものの、まだ予断を許さない状況です。ワクチンの医療従事者への先行接種も始まりましたが、高齢者への接種開始が予定より遅れる見込みで、一般の方への接種がいつ始まるかなど全体的な見通しも立っていません。

▼ドナー登録者の確保に向けては、一刻も早い新型コロナウィルス感染の収束が望まれますが、今回のコロナ禍でテレワークや新しい生活様式が定着しつつある中で、骨髄バンクのドナー登録にも新しい登録方法が必要となってきています。それは対面による説明や血液採取の必要がないオンラインによる登録です。

▼全国骨髄バンク推進連絡協議会では、アメリカなど海外で行われているオンラインによる登録手続きと、スワブで口腔粘膜から採取した検体を自宅から郵送で送ることによるHLA検査を日本にも早期に導入するよう国に求めてきました。

▼2021年度の国庫補助金では登録方法の改善に向けた予算は見送られましたが、現在厚労省の研究班でスワブ採取によるHLA検査の精度やオンライン登録の導入についての検討が、骨髄バンクの協力のもとで進められています。今後、研究班の調査報告を受けて、夏頃までに厚生労働委員会でオンライン登録の導入方法やシステム化、予算などが検討される予定になっており、2022年度からオンライン登録を導入するよう国に決断を求めたいと思います。

▼新型コロナウィルスの感染拡大は、移植数にも影響を与えています。骨髄バンクを通じた2020年の年間移植数は1,092件で、前年比151件の減少（88％）となりました。コーディネート件数自体も同様に減少しており、一方でコーディネート開始から移植までの日数が中央値で１日延びています。詳細は不明ですが、新型コロナウィルスの感染拡大が、治療方法の選択や移植コーディネート、病床や医療スタッフの確保などに悪影響を及ぼしているのは間違いないと思われます。

▼いずれにせよ、今の状況を打開するためには新型コロナウィルスの感染を何としても早く収束に向かわせなければなりません。国や自治体の対策はもちろんですが、今回の会報に皆さんが書いてくれたように、私たち一人一人ができることを続けていきましょう。

(S)

東京の会
「3月、4月定例会」
のお知らせ

3月27日（土）、4月24日（土）午後5時30分より
会場：こくみん共済coop東京会館
（旧：全労済東京会館）3階会議室
※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）
※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドゥ」角入り右側

※5月定例会予定・5月23日（土）午後5時30分より
定例会の開催については新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮し、オンライン開催も取り入れて臨機応変に対応して参ります。

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2020.12.16～2.15)

奈良誓夫さん　5,000円／藤井靖郁さん　10,000円／河村朝子さん　5,000円／白水豊さん　5,000円
竹崎恵子さん　100,000円／株式会社マルゼン様　5,241円／髙橋いずみさん　2,000円
橋爪由里さん　2,000円／佐野啓子さん　2,000円／國分秀樹さん　5,000円／伊藤史郎さん　2,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費（年3,000円）を差し引いて掲載させていただきました。